

奈良 gadari 語り

- 公文書館だより -

第 1 号



図書館は奈良県の
公文書館です

20 周年ですが
116 年目です



図書館となった今年で 20 周年ですが
県立図書館としては 116 年の歴史があります。
明治、大正、昭和、平成そして令和…。
奈良県の長い歴史とこれからを伝えていきます。

明治 42(1909)年、奈良公園内に 設置されたのがはじまりです

平成 17 (2005) 年 11 月、桜並木が美しい佐保川のほとりに「図書館情報館」という名称で開館して、今年で 20 周年を迎えます。奈良のさまざまな情報が集まる施設、単なる図書館を超えたユニークな施設としての出発でした。しかし、そのルーツは 116 年前の明治時代にさかのぼります。奈良県最初の県立図書館「戦捷記念図書館」が明治 42 年に奈良公園内(興福寺境内)で開館しました。明治・大正・昭和と、先の戦争も乗り越え、約 60 年もの間、県立図書館としての役割を担いました。そして昭和 43 年、県庁の西隣に建設された文化会館に併設というかたちで、新図書館が開館します。その後の 37 年間は、昭和から平成へ、コンピュータや携帯電話が普及するなど、

世の中が大きく変わる時代でした。新たな図書館のあり方も問われるなかで、いち早くデジタル化への対応をすすめた文化会館時代を経て、平成 17 年に「図書館情報館」は誕生しました。

“これからの図書館はどうあるべきか” 図書館に関わる人たちが悩み、挑戦をしながら歩んできた県立図書館の歴史を、「奈良語り」第 1 号では少しご紹介いたします。

戦捷記念図書館(奈良図書館)



2025 年撮影

初代県立図書館の建物は閉館後、郡山城跡に移築。大和郡山市民会館となりました。平成 9 年 3 月には、奈良県の文化財に指定されました。

県立図書館 116 年の歴史

戦捷記念図書館

日露戦争の戦捷記念事業として
奈良公園内に設置



【開館】明治 42(1909)年
【場所】奈良公園内(興福寺境内)
【設計】橋本 卯兵衛

和洋折衷の木造 2 階建てで、1 階には普通・児童・新聞の各閲覧室、事務室、応接室などがあり、2 階には記念室、特別室、婦人閲覧室が設けられていました。書庫は 5 万冊収容可能な耐火煉瓦造りでした。

戦捷(せんしょう):戦いに勝つこと

奈良図書館

郷土資料室は研究者のサロンに
社会のデジタル化にも
いち早く対応



【開館】昭和 43(1968)年
【場所】奈良文化会館 併設
【設計】片山 光生

文化会館時代は『蔵書目録』『郷土資料目録』などを編纂し、所蔵資料の整備を進めました。また、平成に入ると目録情報のデータベース化に加え、館のホームページ開設や所蔵資料の画像公開など、当時としては先進的な取り組みもおこなわれました。

三代目です

図書情報館

図書館を超えた
新しいカタチをめざして



【開館】平成 17(2005)年
【場所】大安寺西 1 丁目(佐保川沿い)
【設計】日本設計 [2006 年 JIA 優秀建築選]

図書館としてだけでなく、公文書館機能も併設し、奈良県の情報が集まる拠点として誕生。大人数収容可能なホールやデジタルスタジオ、画像・動画編集ができる機材、大型プリンターも備え、利用者が情報発信できる施設としても活用されています。

明治 4 年
(1871) 大和全体を管轄する
「奈良県」が成立

5 年 日本初の近代図書館
書籍館(東京)開館



① [M5] 奈良県初の新聞
『日新新聞』発行

9 年 奈良県廃止、堺県に合併

13 年 奈良公園開設

14 年 堺県が大阪府に合併



20 年 奈良県再設置

[M8] 奈良博覧会開催
(於: 東大寺大仏殿)

27 年 日清戦争



③ [M28] 帝国奈良博物館 開館

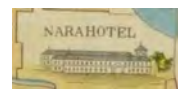
37 年 日露戦争



④ [M39] 平城宮址保存会
設立

41 年 ★奈良県立戦捷記念図書館 竣工
陸軍特別大演習 ※図書館が統監部として使用
されたため開館が遅れる

42 年 (1909) ★奈良県立戦捷記念図書館 開館



⑤ [M42] 奈良ホテル開業



⑥ [T3] 大阪電気軌道
上本町～奈良間開通



⑦ [T4] 東大寺大仏殿修理
完成落慶供養挙行

大正 12 年 (1923) 関東大震災
★奈良県立奈良図書館に改称

15 年 ★奈良県童話連盟発足
奈良図書館に事務局が
おかれる



⑧ [T15] あやめ池遊園地開業

県立図書館の歩みを 奈良県の主なできごとと共に振り返ります

★は県立図書館に關係するできごと/ は全国のできごと
[]は元号 M:明治 T:大正 S:昭和 H:平成 R:令和

- 昭和 5 年 (1930) ★石上宅嗣卿 1150 年祭、顕彰碑除幕式挙行
- 6 年 満州事変
- 12 年 日中戦争開戦
- 13 年 奈良県立橿原考古学研究所設立
- 15 年 紀元 2600 年祭
★橿原文庫開設
★全国図書館大会 (奈良大会) 中止
★奈良図書館 2 階の一部を
大政翼賛会奈良県支部事務室として貸す
- 16 年 太平洋戦争開戦
- 20 年 奈良への疎開増加
★奈良図書館の貴重図書を疎開
★図書館 1 階の一部が奈良県国民義勇隊本部と
なり図書館業務を縮小
- ポツダム宣言受諾
アメリカ軍 奈良に進駐
- 22 年 ★奈良図書館内に CIE 図書室併設
(GHQ/SCAP より図書・雑誌寄贈)
- 25 年 図書館法 施行
- 27 年 ★奈良図書館内に郷土資料室開設
★日本十進分類法に図書の分類を切替え、開架
方式を採用
- 34 年 伊勢湾台風
- 39 年 東京オリンピック
- 40 年 奈良県新庁舎竣工
- 43 年 (1968) ★新図書館(奈良県文化会館に併設)が開館
- 45 年 大阪万博
★橿原文庫、奈良県立橿原図書館と改称
館内に「万葉文庫」を設け、「万葉研究会」発足
- 46 年 国立公文書館 開館 (東京都千代田区)



[S9]奈良歩兵第三十八連隊満州へ



橿原文庫

※S45 に奈良県立橿原図書館となる



[S21]第1回 正倉院展

- 55 年 明日香村保存特別立法施行
- 56 年 ★石上宅嗣卿薨去 1200 年芸亭院顕彰記念式
典開催
- 63 年 なら・シルクロード博 開催
- 平成 5 年 (1993) 法隆寺地域の仏教建造物 日本で初めてユネス
コ世界遺産に登録
- 7 年 阪神淡路大震災
- 8 年 ★奈良県福祉政策課の事業「戦争体験文庫」
開始 ※H13 年奈良図書館に移管
- 13 年 県立万葉文化館開館
★万葉文庫資料を万葉文化館へ移管
- 17 年 (2005) ★奈良県立奈良図書館、橿原図書館閉館(3 月)
★奈良県立図書館情報館開館 11 月 3 日
(公文書館機能を併設)
- 19 年 ★入館者 100 万人達成
図書館を舞台に、H19 にはファ
ッションショー、H21 には劇が
行われました
- 21 年 公文書等の管理に関する法律 制定
★奈良県行政文書(明治～大正)が奈良県の文
化財に指定される
★“Library of the Year 2009”優秀賞受賞
図書館としての先進的な取り組みが評価されました
- 22 年 平城遷都 1300 年祭開催
★全国図書館大会奈良大会開催
※テーマ「温故創新-平城遷都
千三百年からの発信」
- 23 年 東日本大震災 [H21]図書館寄席スタート
★「ビブリオバトル」開催(全国公立図書館初)
- 28 年 ★大和国絵図が奈良県の文化財に指定される
- 30 年 大阪北部地震
西日本豪雨
- 令和 2 年 (2020) 新型コロナウイルス流行
★図書館情報館 臨時休館
(3/2～5/18)
- 3 年 東京 2020 オリンピック・パラリンピック
★再び図書館情報館 臨時休館※感染症対策
(5/1～5/31)
- 5 年 ★図書館情報館 入館者 900 万人突破
- 6 年 能登半島地震
- 7 年 大阪・関西万博

【そのほか奈良県の世界遺産】
古都奈良の文化財[H10]
紀伊山地の霊場と参詣道[H16]



⑫



⑬



⑭



[R7]敷地内にシカ出没

公文書の せかい

“公文書”ってどんなイメージでしょうか？

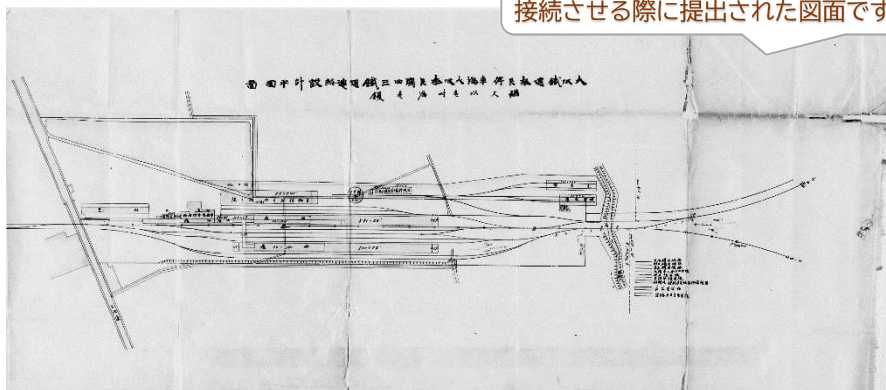
公文書には公務員が作成した文書だけではなく、一般の人が県に提出した文書も含まれています。例えば明治時代の博覧会の開催や鉄道敷設の申請、社寺や学校に関する調査の回答など。そこには当時の人たちの考えや想い、社会が抱えていた問題などがつづられていることもあります。今回はお問い合わせの多いテーマ別に公文書の一例をご紹介します。

鉄 道

鉄道路線の敷設計画や停車場の建設計画の公文書も残っています

奈良県内の鉄道敷設は明治 23 (1890) 年の大阪鉄道線開通 (奈良～王寺間) に始まります。25 年には亀ノ瀬の工事完了により奈良～湊町間が開通しました。その後も 29 年に奈良～京都間 (奈良鉄道)、高田～五條二見間 (南和鉄道) など、急速に鉄道網が整備されていきました。

奈良停車場(現 JR 奈良駅)平面図



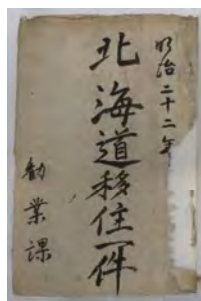
『通信通信鉄道』明治 32 年 1-M32-53d

大阪鉄道・奈良鉄道・関西鉄道を接続させる際に提出された図面です。

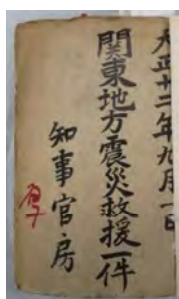
災 害

奈良県でおこった災害と復興の記録や各地でおこった災害の救援活動の記録

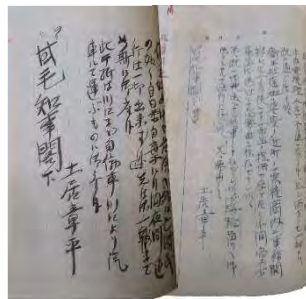
公文書には当時の人たちの熱い想いや悲痛な心情がつづられていることも



『北海道移住一件』
明治 22 年 1-M22-47



『関東地方震災救援一件』
大正 12 年 1-T12-2



奈良県では明治 22 (1889) 年 8 月に発生した台風で十津川郷 (現十津川村) が壊滅的な被害をうけました。生活の基盤を失った村民の生活再建のため北海道移住 (2,667 人、641 戸※) を計画し、新村 (新十津川村) の建設にあたった際の公文書も残されています。また、関東大震災など、他の地域で起こった災害の救援の記録も残っています。

※『明治廿二年吉野郡水災誌』より

法 令

国や県の法令を公文書から知ることができます
またこれらを県民に周知する公報も所蔵しています

「学 制」



「大礼服制」勅任官の大礼服



『太政官布告布達』明治 5 年 1-M5-9f

当館には明治のはじめに国が公布した法令をまとめた公文書も残っています。例えば、明治 5 年の『太政官布告布達』には、同年 8 月に発布された日本最初の近代学校制度に関する最初の基本法令「学制」が収録されています。

奈良県の公報

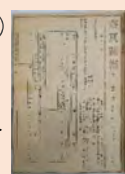
『奈良県報』

明治 27 年～昭和 28 年
(1897～1953)

『奈良県公報』

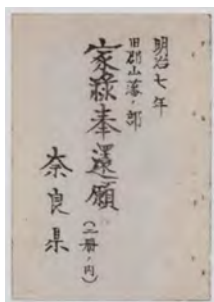
昭和 29 年～現在
(1954～現在)

『奈良県報』▶
明治 33 年



藩

江戸時代の藩士の名前や城郭の状況を
明治の公文書から知ること



『旧郡山藩ノ部 家禄奉還願』
明治 7 年 1-M7-12d



『郭内地所建物調』(明治 7～8 年) 1-M7-7d

明治維新を迎えるまで、大和国には、郡山・高取・小泉・櫛羅・芝村・柳生・柳本・田原本の八藩がありました。明治時代、県に提出された旧藩に関する公文書から幕末にどんな藩士がいたのかがわかります。また城の中や城下の武家屋敷の見取り図などを綴った公文書も残されています。

明治の公文書を手がかりに
江戸時代の様子を知らね

神社/寺院

明治時代の『神社明細帳』『寺院明細帳』には社寺の由緒が書かれ、
境内の見取り図や実測図が添えられていることもあります

明治新政府による神仏分離政策により、社寺の様相は一変しました。政府は早くから神社・寺院の実態や実数調査に着手し、明治 12 年には神社・寺院明細帳の調製を各府県に命じました。奈良県では明治 24 年にも明細帳が調製されています。当館では両年の明細帳をともに所蔵しています。



『奈良市神社明細帳』
(明治 24～29 年) 1-M24-77d



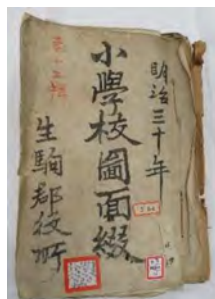
『奈良市神社』(明細帳付図)
明治 24 年 1-M24-51d

学校

寺子屋の調査、
明治時代の小学校の
沿革や校舎の図面
など



『家塾寺子屋取調ニ関スル書類』
明治 16 年 1-M16-22

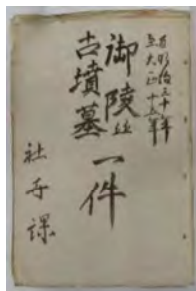


『小学校図面綴』(生駒郡)
明治 30 年 2・3-M30-11

学校についての公文書も奈良県には多く残っています。明治のはじめの寺子屋調査や小学校の沿革、図面など。当時の校舎の様子や生徒数、どんな人が先生をしていたのか、どんな教科書を使っていたかなどを公文書から知ることができます。
ちなみに、明治 7 年の奈良県の小学校就学率は 52.7%。全国平均 32.3%。全国でもトップクラスの高さでした。

古墳

天皇陵の伝説地の取り調べや古墳墓発見の公文書も奈良県には多くの天皇陵(山陵)や皇族の墓が所在しています。これらの多くが幕末から明治にかけて調査・整備されたことは、あまり知られていません。



『御陵並古墳墓一件』明治 30 年～大正 15 年 1-M30-27d



①④は奈良奉行所の
与力の記録、
②③は
陵墓の図

江戸時代の陵墓調査と整備の記録

■元禄の陵墓調査

- ①『庁中漫録』[山陵記録]22-4-53
- ②『諸陵考』T-1-52
- ③『大和國古陵圖』288.46-ヤマト



天武天皇御陵図
(『諸陵考』)

■幕末の陵墓修補(修陵)

- ④『庁覧』7-3-2,4,5



展示されました



なら歴史芸術文化村

特集展示

「奈良県指定の文化財

－ 未来へつなぐリレー」

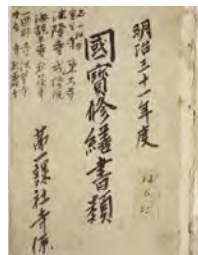
会期：2025 年2月8日～3月9日

文化財保護法の制定と奈良県に文化財保存課が設置されてから 75 年となる節目の今年、奈良県における文化財

保護の歴史をたどる展示が、なら歴史芸術文化村で開催されました。当館からも明治 8 年に東大寺大仏殿と東西回廊で開かれた奈良博覧会の目録や国宝修繕に関する公文書などを出陳。各時代の人びとが次代へとつないだ軌跡を伝える資料が並びました。



奈良博覧會物品目録
[明治 8 年]



『明治三十一年度 国宝修繕書類』



掲載されました



『図説 豊臣秀長-秀吉政権を支えた天下の柱石』

河内将芳著

戎光祥出版 2025 年 5 月

来年の NHK 大河ドラマ「豊臣兄弟！」で注目が集まる豊臣秀長。兄の秀吉を支え、天下取りを目指した彼の生涯をひもとく『図説 豊臣秀長』に当館所蔵の『庁中漫録』が掲載されました。秀長の死後、家臣の井上源五の不正を奈良惣中が訴えた直訴状の写しの部分です。この不正には奈良の町人たちに金子を強制的に貸し付けて利子を徴収する「奈良借（ならかし）」と呼ばれる秀長の施策が背景にありました。



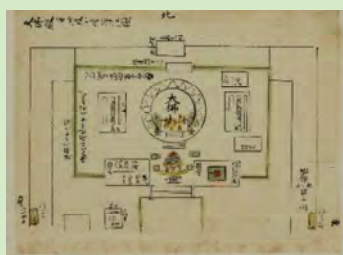
『庁中漫録(和州志：廳,上)』『全 13 箇条の直訴状』

江戸時代の大和を知る 第一級の史料！

ちょうちゅうまんろく
『庁中漫録』全 78 冊の画像を公開しました。

奈良奉行所の与力、玉井定時とその子孫が残した記録『庁中漫録』の全画像を公開しています。大仏と大仏殿の再建、正倉院の開封、春日社の造替の記録などを含む、江戸時代の大和を知るには欠かせない史料です。

まほろばデジタルライブラリーから
「庁中漫録」で検索



[和州志：大佛殿新始次第日録]

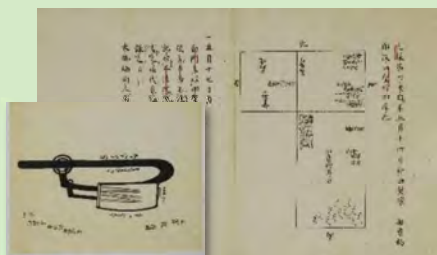
大仏殿の再建

古文書の学習にも

画像を公開した『庁中漫録』の 1 巻から 21 冊分（地誌の部分）を活字化しました。『奈良史料叢書』一～七、別冊目次、索引として出版、こちらの画像も公開しています。庁中漫録の画像と『奈良史料叢書』を照らし合わせれば、古文書のくずし字を読むテキストとしても利用できます。



「奈良史料叢書」
で検索

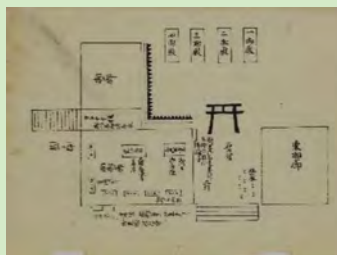


三倉の錠

御宝物改めの座配図

[御開封記：東大寺正倉院]

正倉院の開封



外遷宮の図 [春日社御造替記]

春日社の御造替

展示情報

関東大震災 100 年 -奈良県理事官が見た帝都-

会期:令和 5 年(2023)
8 月 29 日~9 月 28 日

大正 12 (1923) 年 9 月 1 日午前 11 時 58 分、マグニチュード 7.9 と推定される巨大地震が関東地方を襲いました。関東大震災です。奈良県では被災地救援のため急遽、土井理事官を総指揮として職員 6 名、医師・看護師等救護班 4 名を東京に派遣しました。9 月 4 日、東京に上陸した派遣団が目にしたのは変わり果てた帝都の姿と想像を超える惨状でした。震災から 100 年の節目を迎えた 2023 年に関東大震災に関連する公文書や雑誌、新聞を展示しました。

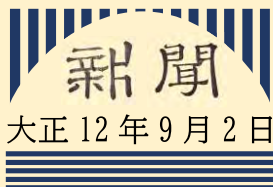


展示担当者の つぶやき



関東大震災をテーマに展示をすると決まった時、当館にはあまり資料がないのではないかと不安でした。教科書にも載っている大きな災害ですが、奈良県からは離れた地域で起こった災害です。はたして資料はあるのか…。すると、あるわあるわ、前身の図書館が明治 42 年にでただけのことはあります。当時の図書、雑誌、新聞、調査報告書、そして公文書。特に公文書の内容に驚きました。派遣団として震災直後に東京にむかった理事官の手紙には、報告を超え、この状況を何とかしたいという必死な想いや死体の山を目にした悲痛な心情がつづられていたのです。記録に残された当時の人たちの想いを何とか今の人に伝えたい。そんな気持ちでこの展示を企画しました。今でもこの展示を振り返り、当時の人のことを思うと胸がつかまります。

(三原 奈美)



関東大震災の翌日 鉄道がストップし 移動にも一苦労

関東大震災直後は各地で鉄道が不通となり、人々の移動手段が制限されました。新聞記事から、当時の状況を知る手がかりを探してみましょう。

大正 12 (1923) 年 9 月 2 日の大阪朝日新聞では、「大阪から東京へ二日かかる」という見出しで「東海道、中央、信越各線不通のため大阪より東京へ行くには、北陸線を経て信越本線新潟行きに乗車新潟驛にて磐越西線に乗替へ、若松を経て、更に郡山驛にて東北本線に乗替へ、宇都宮経由、東京上野線に到着する外はないが、それには二日間かかる」と報じられています。鉄道の不通のため、東京へ向かうのにも大回りしなければならなかったのが分かります。

それでは、実際に震災直後に東京へと向かった人はどのようなルートで移動したのでしょうか。児玉千尋編『文豪たちの関東大震災』の中で、当時京都に住んでいた志賀直哉が震災の報を受けて上京した際の記録として「震災見舞(日記)」が紹介されています。これによると、志賀は「信越線廻りりで川口町まで汽車通ずる由」を聞き、9 月 2 日午後 3 時頃の列車で京都から名古屋へ向かい、同日午後 8 時 40 分に名古屋で「臨時川口町直行と云う」列車に乗り替え、9 月 4 日午前 2 時半にようやく川口駅(埼玉)に到着します。そこから荒川を渡り赤羽駅(東京)まで移動し、赤羽駅から日暮里行き列車に乗車。日暮里で下車後、麻布の家まで歩いたようです。震災後の混乱の中で被災地へと向かう苦労が伺える、興味深い記録です。

(奥村 香理)

[参考]

『大阪朝日新聞』大正 12 年 9 月 2 日 11 面

『文豪たちの関東大震災』児玉千尋編 皓星社 2023 年 7 月

庁中漫録 あれこれ

Vol.2



「庁中漫録」には、著者の玉井定時が実際に目にした出来事から、古代以来の神話や伝承に至るまで、さまざまな時代の記録が含まれています。雑多とも思えるその内容の中には、今では失われてしまった情報もあります。

かつて東大寺は^{てがい}転害門のほど近くに、東大寺の配下で漆屋を営む、松屋という商家がありました。この家は茶道の名家でもあり、村田珠光・千利休・細川忠興といったその当時を代表する文化人と交流をもった記録が残っています。「庁中漫録」六(『奈良史料叢書』二に収録)では、東大寺や八幡宮(^{たむけやま}手向山八幡宮)に関連して「松屋家所蔵数奇道具」について触れられており、松屋が所有していた茶道具について知ることができます。

松屋の所蔵品のなかでも、徐熙(^{じょき}五代十国時代を代表する画家)による鷺の絵の掛け物、「松屋^{かたつき}肩衝」と呼ばれる茶入、漆芸で模様を描く^{ぞんせい}存星盆という3つの唐渡りの道具は、「松屋三名物」と

して世に知られていました。定時もこれらの名物にたいそう興味を抱いたらしく、盆に沈金の技法で描かれた山水画や、掛け軸の鷺たちを、なんとも味わいのあるイラストを付しつつ書き残しています。



「徐熙筆鷺絵掛物」の鷺の絵

この「松屋三名物」のうち「松屋肩衝」については、現在のところ根津美術館(東京都)に所蔵されて



「存星盆」の山水画

います。ところが、鷺の絵と存星盆については、幕末ごろに売却されたのち、現在に至るまで行方不明になったままなのです。そうになると、定時が残したずいぶんゆるい雰囲気絵も、多くの文化人を魅了した名物を知るための、重要な情報源になるのかもしれませんが。

(竹端 絢子)

まほろばデジタルライブラリー

当館所蔵の古文書や絵図、公文書の一部をデジタル画像でご覧いただけます。



QRコードを読み取ると、
検索画面が開きます。

<編集後記>

お待たせいたしました。記念の第1号は県立図書館の歴史をご紹介いたしました。116年の長い歩みはA3見開き1枚には当然おさまりませんが、その深い歴史が少しでも伝わりましたでしょうか。資料紹介は「公文書のせかい」と題しました。“公文書って意外とおもしろいかも”と感じていただけたらいいなと思っています。では、また次の号で。

奈良語り -公文書館だより- <第1号>

発行日 令和7年8月24日

編集 図書・公文書課 公文書・地域研究係

発行 奈良県立図書情報館

〒630-8135 奈良市大安寺西1丁目1000

TEL.0742-34-3366 FAX.0742-34-2777

参考文献:『奈良県立図書館小史』奈良県立奈良図書館[編]1977 / 『「奈良県立図書館」100年の歩み』奈良県立図書情報館 [編]2010/ 奈良県立図書情報館報『うんてい復刊』2号,3号 2010/『奈良県の歴史』和田萃[ほか]著 山川出版社 2010/奈良県立図書情報館 2018 年図書展示「大和から奈良へ ~150年の記憶とつながり~」図録